【参考資料4】「科学技術基本計画」と「知的基盤整備計画（経済産業省）」の時系列関係

科学技術基本計画における知的基盤について

第1期
科学技術基本計画
（平成8年7月閣議決定）

研究開発活動等の安定的、効率的な推進を図る上で、知的基盤を整備することが重要。

●計量標準の種類の大幅な拡充
●各種試験評価方法の確立
●生物遺伝資源、化学物質に関するデータ整備

第2期
科学技術基本計画
（平成13年3月閣議決定）

知的基盤の戦略的・体系的な整備を促進

●平成22年を目途に世界最高の水準を目指す
●利用者にとっての利便性を向上
●研究成果も有効に蓄積・整備
●知的財産権等の基本的ルールを整備
●今後の研究者・技術者の活動評価

第3期
科学技術基本計画
（平成18年3月閣議決定）

量的観点のみならず、利用者ニーズへの対応の度合いや利用頻度といった質的観点を指標とした整備を行うよう知的基盤整備計画を見直し、選択と集中を進めつつ、平成22年に世界最高水準を目指して重点整備を進める。

第4期
科学技術基本計画
（平成23年8月　閣議決定）

今後は、多様な利用者ニーズに応えるため、質の充実の観点も踏まえつつ、知的基盤の整備を促進する

●国は、新たな整備計画を策定
●知的基盤の充実及び高度化
●緊急時に対応するための体制を構築
●国は、先端的な計測分析技術及び機器の開発、普及、活用
●人材の養成及び確保

第5期
科学技術基本計画（案）
（平成28～平成32年）
※内閣府において議論中。

（参考）科学技術基本計画答申案（抄）
幅広い研究開発活動や経済社会活動を安定的かつ効果的に促進するために不可欠な知的基盤について、公的研究機関を実施機関として戦略的・体系的に整備

第5期科学技術基本計画を踏まえ、第2期知的基盤整備計画の着実な実施と取組の強化を図る

知的基盤整備計画（経産省）

第1期
知的基盤整備計画
（平成13～平成22年）

平成22年を目標に欧米に匹敵する世界最高水準の知的基盤の整備を実施。

●計量標準：物理標準297種類、標準物質296種類の整備（米国：物理標準600、標準物質400）
●地質情報：20万分の1地質図幅の全国カバー
●化学物質安全管理：化学物質管理法令等対象物質5,415物質のハザードデータベースの整備　（米国10,355物質）
●生活・安全：人間特性DB：寸法・形態43,500人、動態・感覚3,900データ、製品事故DB：27,463件
●生物遺伝資源情報：微生物64,889株
●材料：約29万種類のガラスに関する約84万件の物性・構造値データの収集
　　ファインセラミックス試験評価方法のISO提案

第2期
知的基盤整備計画
（平成23～平成32年）

利用者ニーズに応えるための利用促進方策と一体となった知的基盤の整備を実施。

●計量標準ユーザーニーズを踏まえた整備計画
●微生物遺伝資源
　整備の優先付け、産業有用な情報付加
●地質情報
　国土基礎情報としての整備